

2026年度授業計画 (シラバス)

2年生

お茶の水はりきゅう専門学校

教育課程及び授業時数

1単位時間 45分

		はり師きゆう師学科 (昼間・夜間)										
教育内容	科目名	必修/選択	授業形式	1年		2年		3年		合計		
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基盤及び人間と生活	生物学	必修	講義	2	40					2	40
		心理学Ⅰ	必修	講義			2	40			2	40
		心理学Ⅱ	必修	講義	2	40					2	40
		漢方薬概論	必修	講義	2	40					2	40
		ヘルスプロモーション概論Ⅰ	必修	講義			2	40			2	40
		ヘルスプロモーション概論Ⅱ	必修	講義			2	40			2	40
	栄養学	必修	講義	2	40					2	40	
規則14単位	小計			8	160	6	120	0	0	14	280	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	必修	講義	4	80					4	80
		解剖学Ⅱ	必修	講義	4	80					4	80
		生理学Ⅰ	必修	講義	4	80					4	80
		生理学Ⅱ	必修	講義	4	80					4	80
	規則12単位	小計			16	320	0	0	0	0	16	320
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学概論	必修	講義			3	60			3	60
		臨床医学総論	必修	講義			4	80			4	80
		臨床医学各論Ⅰ	必修	講義			4	80			4	80
		臨床医学各論Ⅱ	必修	講義			4	80			4	80
		リハビリテーション医学	必修	講義					3	60	3	60
	衛生学・公衆衛生学	必修	講義			2	40			2	40	
	規則12単位	小計			0	0	17	340	3	60	20	400
	保健医療福祉とはり及びきゆうの理念	医療概論	必修	講義					1	20	1	20
社会保障・医療倫理		必修	講義					1	20	1	20	
関係法規		必修	講義			1	20			1	20	
規則3単位	小計			0	0	1	20	2	40	3	60	
専門分野	基礎はり学 基礎きゆう学	東洋医学概論Ⅰ	必修	講義	4	80					4	80
		経絡経穴概論	必修	講義	4	80					4	80
		鍼灸理論Ⅰ	必修	講義	2	40					2	40
		東洋医学概論Ⅱ	必修	講義			4	80			4	80
	規則9単位	小計			10	200	4	80	0	0	14	280
	臨床はり学 臨床きゆう学	東洋医学臨床論Ⅰ	必修	講義					2	40	2	40
		東洋医学臨床論Ⅱ	必修	講義					2	40	2	40
		東洋医学臨床論Ⅲ	必修	講義					2	40	2	40
		鍼灸理論Ⅱ	必修	講義					2	40	2	40
		生体観察	必修	講義			2	40			2	40
		あはきの適応判断	必修	講義			2	40			2	40
	病態生理学	必修	講義			2	40			2	40	
	規則13単位	小計			0	0	6	120	8	160	14	280
	社会はり学・社会きゆう学	社会はりきゆう学	必修	講義					2	40	2	40
	規則2単位	小計			0	0	0	0	2	40	2	40
	実習	基礎はりきゆう実技Ⅰ	必修	実習	2	80					2	80
		基礎はりきゆう実技Ⅱ	必修	実習	2	80					2	80
		基礎はりきゆう実技Ⅲ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゆう実技Ⅰ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゆう実技Ⅱ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゆう実技Ⅲ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゆう実技Ⅳ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゆう実技Ⅴ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゆう実技Ⅵ	必修	実習					2	80	2	80
		臨床はりきゆう実技Ⅶ	必修	実習					1	40	1	40
	臨床はりきゆう実技Ⅷ	必修	実習	1	40					1	40	
	臨床はりきゆう実技Ⅸ	必修	実習					1	40	1	40	
規則15単位	小計			5	200	6	240	4	160	15	600	
臨床実習 規則4単位	臨床実習	必修	実習					4	180	4	180	
規則19単位	小計			5	200	6	240	8	340	19	780	
総合領域	総合領域Ⅰ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅱ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅲ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅳ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅴ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅵ	必修	講義					1	20	1	20	
規則10単位	小計			0	0	0	0	11	220	11	220	
合計	必修科目授業時数				880		920		860		2,660	
	選択科目授業時数				0		0		0		0	
	卒業に必要な総授業単位数				39		40		34		113	
	卒業に必要な総授業時数				880		920		860		2,660	

目次

心理学 I	1
ヘルスプロモーション概論 I	3
ヘルスプロモーション概論 II	6
病理学概論	9
臨床医学総論	11
臨床医学各論 I	13
臨床医学各論 II	15
衛生学・公衆衛生学	17
関係法規	19
東洋医学概論 II	20
生体観察	22
あはきの適応判断	23
病態生理学	25
基礎はりきゅう実技 III	27
臨床はりきゅう実技 I (パルス)	29
臨床はりきゅう実技 II (美容鍼灸)	30
臨床はりきゅう実技 III (伝統鍼灸)	31
臨床はりきゅう実技 IV	32
臨床はりきゅう実技 V (トリガー)	34

心理学 I (コミュニケーション)

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (前期) 2単位 講義

非常勤講師 中山 麻子

【一般目標 (GIO)】 コミュニケーションは、対人心理学の一研究分野であるとともに、鍼灸師として成功するための基礎となる学問である。鍼灸師として、患者と信頼関係を築いて、患者の話にしっかり耳を傾け (傾聴)、共感し、患者から信頼されるためには、カウンセリング理論に基づいた対人援助法としてのコミュニケーションの知識とスキルは必須である。本授業では人間理解を深め、コミュニケーション力を高めていくことを目標とする。

【授業概要】 オンデマンド教材による授業を行う。オンデマンドではあるが、実践的な内容を盛り込み、将来鍼灸師として役立つ対人スキルを身につけられるよう、説明を進めていく。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	心理学・コミュニケーション概論	心理学およびカウンセリングについて概要を説明する。 自分のコミュニケーションスキルを知る
2	自己紹介	自己紹介を通して自分自身の理解を深めること、及びコミュニケーションを学ぶ。
3	他者との関わり	ゲームを通して、人との関わり方を学ぶ。
4	傾聴	傾聴の基礎を身につける。 質問や応答の仕方を学ぶ。
5	信頼関係の構築	ラポールの形成をはかる。 受容と共感のスキルを身につける。
6	まとめ1	これまでの学びについて、復習および補足説明を行う。
7	アサーション1	対人コミュニケーションの基本を学習する。
8	アサーション2	アサーショントレーニングを行う。
9	非言語的コミュニケーション	印象形成、表情、パーソナルスペースについて理解する。
10	日常会話におけるコミュニケーション	自分と他者の認知の違いを知る。
11	対人コミュニケーション	ゲーム課題を通してコミュニケーションを学ぶ。
12	まとめ2	これまでの学びについて、復習および補足説明を行う。
13	自己理解1	よりよいコミュニケーションのために、自己理解を深める
14	自己理解2	ユング心理学、効果的な質問方法等を理解する。
15	他者理解	ジェノグラムを理解する。
16	心の病	さまざまな心の問題について理解する。
17	心理療法	さまざまな心理療法について理解する。
18	まとめ3	これまでの学びについて、復習および補足説明を行う。
19	まとめ4	これまでの学びについて、復習および補足説明を行う。
20	定期試験	定期試験を行う。

【方略】 オンデマンド授業等

【評価方法と基準】 課題レポート試験等の成績（評価：60点以上）によって評価を行う。

【学生の質問への対応】 勤務時間内随時

【教科書】 水國照充・青木智子・木附千晶 著

『[改訂版] 楽しく学んで実践できる 対人コミュニケーションの心理学』（北樹出版）

【参考書】

野島一彦「臨床心理学への招待」ミネルヴァ書房

松原達哉・榆木満生「臨床心理アセスメント演習」培風館

榆木満生・田上不二夫「カウンセリング心理学 ハンドブック 上巻」金子書房

下山晴彦 編「よくわかる 臨床心理学」ミネルヴァ書房

長尾博「やさしく学ぶ カウンセリング26のレッスン」金子書房

福島脩美「総説 カウンセリング心理学」金子書房

ヘルスプロモーション概論 I

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (前期) 2単位 講義

非常勤講師 松田 佳和・井上 俊夫

【一般目標 (GIO)】 メンタルヘルスの領域における基礎知識を身につけ、さまざまな問題にとりくむための基本的な能力を養うことを目的とする。

【授業概要】 メンタルヘルス (=人の心の健康)を支える力は、ライフサイクルの中で養われ、人と人とのネットワークの中で維持されるものである。この科目では、そのような健康な力を育むメカニズムを学ぶとともに、破綻の結果として生じる精神疾患のあらましを知り、生活の場において生じるさまざまな問題の現状と対策を考えていく。メンタルヘルスの危機が叫ばれている今日、喫緊のテーマを扱うものである。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	メンタルヘルスとは何だろうか	全体の導入として、メンタルヘルスという概念の意味・内容について検討する。疾病構造の変化や最近の統計データを確認し、WHO の健康の定義やそこに現れている包括的な健康観を学びながら、今日におけるメンタルヘルスの意義について考える。 【キーワード】 メンタルヘルス、包括的な健康観、精神疾患、身体的健康、健康なパーソナリティ
2	ライフサイクルとメンタルヘルス (1) 周産期・乳児期・幼児期	周産期は妊娠・出産といった身体的変化に伴い、心理的にも不安定になりやすい時期である。この時期に生じる心の問題について、母親の症状、母子の関係性にみられる症状について紹介し、母親のメンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 妊娠、出産、アタッチメント、虐待、産後うつ
3	ライフサイクルとメンタルヘルス (2) 児童期、思春期、青年期	子どもは家庭と学校で多くの時間を過ごしているため、子どものメンタルヘルスに大きな影響を及ぼしている要因として家庭と学校、そしてコミュニティがある。本章では各々の領域における子どもの心の問題に焦点を当て、メンタルヘルスを高めるための方法について考察する。 【キーワード】 対人関係、アイデンティティ、不登校、いじめ
4	ライフサイクルとメンタルヘルス (3) 成人期	今日の成人期はかつてと異なり、絶えず変化する社会環境に不断の再適応を迫られるストレスフルな時期である。男性と女性の生理的・心理的相違や社会的役割をめぐる葛藤が、それぞれの性に特有の問題をもたらすことも見逃さない。 【キーワード】 就労、結婚、ジェンダー、役割期待
5	ライフサイクルとメンタルヘルス (4) 老年期と人生のしめくくり	急速に高齢化社会を迎えている現代で、老年期のメンタルヘルスを保つことが重要な時代になってきている。高齢になるとさまざまな健康問題、喪失体験と向き合うことになる。高齢になると心にどのような変化があり、それに対応していくかを学ぶ。 【キーワード】 老年期、認知症、介護、抑うつ、健康、死
6	ストレスの理論	ストレス理論の歴史と現状について学ぶ。セリエからラザルスを経て今日に至る歴史的な流れを展望した後、現時点での代表的な考え方を紹介し、メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性を論じる。

		<p>【キーワード】 ストレス、ストレッサー、セリエ、ラザルス</p>
7	職場とストレス	<p>近年、職場における勤労者のストレスがメンタルヘルス維持にとって重要な問題となっている。職場ストレスの現状について学ぶとともに対策を検討する。最後に、復職支援や障害者雇用の現状についても触れる。</p> <p>【キーワード】 職場ストレス、安全配慮義務、労働災害、職場ストレスモデル、職場復帰支援</p>
8	ストレス・コーピングの実践	<p>前回まで学んだ理論的基礎を踏まえ、自分自身のストレスに適切に対処していくための実践的な方略について学ぶ。自らのストレスの原因を整理すること、ストレス対処には幅広い方法があることを意識していることが大切である。</p> <p>【キーワード】 ストレス・コーピング、認知的評価、ジョブ・クラフティング</p>
9	精神疾患（1） 心の病とはどんなものか	<p>精神疾患はメンタルヘルスが破綻した結果として起きるものである。この回では精神疾患全般を広く見渡し、精神医療の現状や精神疾患の診断・治療・原因論などについて学ぶ。精神疾患の発症に対する遺伝や環境の影響についても正しく理解したい。</p> <p>【キーワード】 精神疾患、DSM、遺伝と環境、薬物療法、精神療法</p>
10	精神疾患（2） 精神疾患	<p>脳の機能変調にもとづく精神疾患として、統合失調症と双極性障害をとりあげ、その症状・発病機序・疫学・治療・経過などについて学ぶ。両者はかつて二大精神病と呼ばれた代表的な精神疾患であり、基本的なことならについてよく理解しておきたい。</p> <p>【キーワード】 統合失調症、うつ病、双極性障害、気分障害、脳の機能変調</p>
11	精神疾患（3） 不安とその周辺	<p>不安は人間の存在にとって必要な心の動きである。しかし、これがあまりにも重篤で、長期にわたる場合には、日常生活に大きな支障をきたすことになる。重症化すると、日常生活が極端に制限されたり、他の精神疾患が合併したりすることもある。そこで、早期の段階で問題に気づいて、適切な対応を取ることが必要である。</p> <p>【キーワード】 不安、恐怖、神経症、パニック障害、境界性パーソナリティ障害</p>
12	精神疾患（4） ストレスとストレス反応	<p>ストレスに関連する精神疾患として、適応障害、急性ストレス障害(ASD)、外傷後ストレス障害(PTSD)などがあげられる。心身症や摂食障害もストレスと関係深い。これらの疾患についてストレスとの関連を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害</p>
13	精神疾患（5） アルコール依存症と薬物乱用	<p>アルコール依存症や、覚醒剤その他の物質乱用は、今日の大きな健康問題となっており、その裾野は大きく広がっている。これら有害な物質に対する依存・乱用によって生じる症状や、そこから派生する問題などを広く展望する。</p> <p>【キーワード】 アルコール関連問題、アルコール依存症、心理的依存、身体的依存、覚醒剤</p>
14	災害時とメンタルヘルス	<p>巨大災害はわが国の歴史の中で反復生起するものであり、その備えは社会制度や人の意識の中に常に必要とされる。災害後の支援、復興には時間がかかり、急性期そして中・長期の精神的な支援は欠かせない。昨今、災害時のメンタルヘルスの重要性が問われており、現状と対策を考えたい。</p> <p>【キーワード】 自然災害、人為的災害、被災者支援、支援者支援、DPAT</p>
15	自殺とその予防	<p>わが国の年間自殺者数は約 21,000 人であり、交通事故死者数の約 6 倍となっている(2017 年現在)。2006 年には自殺対策基本法が成立し、自殺予防は社会全体の課題であると宣言された。自殺予防のために、その現状、</p>

		<p>予防のための基本概念、対応の原則について解説する。早期の段階で問題に気づき、適切な対応を取ることで、自殺予防の余地は十分に残されている。</p> <p>【キーワード】 自殺、自殺予防、事前予防、危機対応、事後対応</p>
16	<p>精神疾患（2-1） 脳の機能変調</p>	<p>脳の機能変調にもとづく精神疾患として、その症状・発病機序・疫学・治療・経過などについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 脳の機能変調</p>
17	<p>精神疾患（6） オーバードーズ問題</p>	<p>オーバードーズは、今日の大きな健康問題となっており、その裾野は大きく広がっている。これらの社会問題に対してゲートキーパーとして関わることは重要である。これらの問題について、解説する。</p> <p>【キーワード】 オーバードーズ、ゲートキーパー</p>
18	ゲートキーパーの役割	<p>薬物乱用やオーバードーズ問題に関して、鍼灸師がゲートキーパーとして機能することは、重要である。この講義では、これまで学んだ薬物乱用問題に対して、ゲートキーパーとして何が出来るかを開設する。</p> <p>【キーワード】 オーバードーズ、鍼灸師</p>
19	講義全体の振り返り	ヘルスプロモーション概論 I を振り返る
20	試験	課題レポート試験

【方略】 教員の作成する動画教材を指定の時間にオンラインで視聴する

【評価方法と基準】 各回に実施する小テストとレポートにて成績評価

【学生の質問への対応】 メールで受け付ける

松田佳和：yomatsuda@nichiyaku.ac.jp

井上俊夫：inoue.toshio@nichiyaku.ac.jp

【教科書】 随時紹介

【参考書】 随時紹介

ヘルスプロモーション概論Ⅱ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (後期) 2単位 講義

非常勤講師 松田 佳和・井上 俊夫

【一般目標 (GIO)】 スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠であることを学ぶ。分子生物学・運動生理学など、基礎医学の最新知見から、スポーツや運動が、寿命の延長など、健康長寿に効果があることを学ぶ。

【授業概要】 スポーツロジは、スポーツと健康の関わりを科学的に解明する新しい学問分野として新たに創設されたものである。科学的根拠に基づく習慣的な運動によって、生活習慣病の予防や治療、要介護につながる高齢者の転倒・骨折予防、認知症やうつ病の予防などを行おうという新しい学問である。医学とスポーツ健康科学と連携して、個人個人の体質に応じた肥満予防のためのスポーツ療法など、スポーツと医学が手を結び合って、一般市民の健康増進のための様々な対策を打ち出していこうという体系立った学問の教育を目指す。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	健康長寿のためのスポーツロジ	現代の医療環境と健康増進、予防医学について説明し、スポーツロジという新しい学問体系の必要性について解説する。生活習慣病の予防や治療、要介護回避のための転倒・骨折や寝たきり予防、認知症の予防や治療に応用するための学問体系である。 【キーワード】 要介護、生活習慣病、心臓リハビリテーション、スポーツ医学
2	現代社会と運動不足	遺伝的要因と生活習慣 (食事、運動、休養) が長期間にわたって不適切だった人のかかりやすい病気が生活習慣病である。最近の運動・医科学の研究により、これら生活習慣病に慢性的な運動不足が大きく関係していることが明らかとなっている。ここでは、最新の運動生理学の知見を解説する。 【キーワード】 生活不活発病、NEAT、廃用性筋萎縮
3	運動が全身に与える影響 ー水中運動の効果ー	近年、社会の水泳に対する需要は増え、年々幅広いものとなっている。その需要は、「競泳」に留まらず「アクアエクササイズ」、「水中ウォーキング」、「水を利用したヒーリング」など多岐にわたる。水中運動が呼吸循環機能や、エネルギー代謝に与える影響を、生体データに基づいて解説する。 【キーワード】 水中運動、アクアエクササイズ、水中ウォーキング
4	肥満のメカニズムと運動	体重、体脂肪を調節しているのは自律神経である。運動をしないと自律神経の活動が低下する。筋肉量が減って筋力が低下するだけでなく、基礎代謝も低下する。その結果として太るわけである。運動はこの自律神経機能を回復・亢進させ過剰な食欲を抑え、内臓脂肪を低減させる。これらのメカニズムを最新の知見をもとに分かりやすく解説する。 【キーワード】 自律神経、褐色脂肪、食欲調節ホルモン
5	運動とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームのメカニズムとして内臓脂肪の蓄積とそれに伴うインスリン抵抗性の重要性が指摘されているが、近年、肝臓や骨格筋の細胞内に蓄積する脂質 (異所性脂肪) がインスリン抵抗性の病態としてより重要であることが明らかとなってきている。メタボリックシンドロームの概念と異所性脂肪との関連、それに対する食事、運動の効果について解説する。 【キーワード】 異所性脂肪、インスリン抵抗性
6	運動と糖尿病	近年、2型糖尿病患者数は増加の一途を辿り、今後効果的な予防や治療法の開発が望まれる。肝臓や骨格筋の細胞内に蓄積する脂質 (異所性脂肪) がイ

		<p>ンスリン抵抗性の病態としてより重要であることが明らかとなってきたが、糖尿病の発症、治療におけるそれらの重要性や具体的な対処方法について考えたい。特に日本人においては、非肥満の2型糖尿病が多く、その発症機序と運動の役割について詳しく解説する。</p> <p>【キーワード】 異所性脂肪、インスリン抵抗性、行動変容</p>
7	運動と心血管疾患 (1)	<p>心臓血管系の構造、代表的な心血管疾患の分類、原因、その病態について解説する。それらの疾患に関連する危険因子について理解する。それぞれの疾患における運動療法に位置付け、実情と問題点について解説する。動脈硬化を基盤として発症する虚血性心疾患は増加している。虚血性心疾患の予防、虚血性心疾患患者の心血管イベント再発予防は重要である、その二次予防における運動療法の意義、包括的疾患管理プログラムである心臓リハビリテーションについて解説する。</p> <p>【キーワード】 虚血性心疾患、大動脈疾患、脳卒中、末梢動脈疾患、危険因子、動脈硬化、心臓リハビリテーション</p>
8	運動と心血管疾患 (2)	<p>心不全患者は増加している。心不全の原因と病態を理解する。心肺運動負荷試験の特徴とその意義、心不全に対する運動処方、運動療法の効果について解説する。さらに、心不全に対する心臓リハビリテーションの実際、レジスタンストレーニングの有効性について解説する。</p> <p>【キーワード】 心不全、無酸素運動、有酸素運動、運動処方、心肺運動負荷試験、心臓リハビリテーション、レジスタンストレーニング</p>
9	運動と運動器疾患 (1) -ロコモティブシンドローム-	<p>我が国の健康寿命の定義である介護保険を要する原因となる病気の第一位は、かつては脳出血や脳梗塞などの脳出血疾患であったが、近年これが骨や軟骨といった「運動器」の病気（運動器疾患）となっている。したがって、運動器疾患に対して適切な治療を行うこと、さらに、より早期に診断し治療することや、発症しないための努力も重要となる。高齢社会における健康寿命の延伸の実現に向けて、ロコモティブシンドローム（ロコモ）という定義が、運動器疾患の治療のみならず、早期発見や早期治療、さらには予防に取り組むことを目的に行動するために考案された。これらについて解説する。</p> <p>【キーワード】 健康寿命、運動器、ロコモティブシンドローム、ロコモ度、ロコトレ、骨粗鬆症、変形性膝関節症、脊柱管狭窄症</p>
10	運動と運動器疾患 (2) -骨粗鬆症と変形性膝関節症-	<p>骨・軟骨・筋肉そして関節などの「運動器」は、ヒトのもつ「移動能力」を司る。その機能維持には、「動かすこと」が重要である。長寿化に伴い増加する骨粗鬆症は骨折を、変形性膝関節症は膝の痛みを引き起こすことにより、立ち上がり、姿勢を保ち、そして歩くといった移動能力の低下を招く。この回では、長寿化とともに誰にでも起こり得る代表的な運動器疾患である骨粗鬆症と変形性膝関節症について、その病態について説明するとともに、「動くこと」や「動かすこと」がこれらの運動器疾患の予防や進行の防止に果たす重要性について理解する。</p> <p>【キーワード】 運動器、骨、軟骨、半月板、骨粗鬆症、変形性膝関節症、運動療法、力学的負荷</p>
11	運動と骨格筋	<p>骨格筋は、刺激の変化に対してよく適応する非常に可塑性に富んだ組織であり、筋力トレーニングなど負荷の増大に対しては肥大し、反対に無重力環境などの不活動な状態によって萎縮する。この回では、まず骨格筋が力を発揮する基本的なしくみを理解し、さらに骨格筋の特性とスポーツ競技との関連性についての理解を深める。その上で、加齢に伴う筋萎縮（サルコペニア）と骨格筋に関わるアスリート遺伝子（αアクチニン3遺伝子）を題材に、骨格筋の役割について分子、遺伝子のレベルからも理解することを目指す。</p> <p>【キーワード】 筋力トレーニング、筋肥大、筋萎縮、サルコペニア、筋線維組成</p>

12	認知機能と脳	認知機能は脳の様々な部分と関連している。この回では、認知機能と関連が深い脳部位について解説した後、最も重要な認知機能である記憶と前頭連合野の機能について解説する。 【キーワード】 脳、認知機能、実行機能、記憶、前頭連合野、海馬
13	加齢による脳の変化、認知症とその予防	認知症が今後ますます大きな社会問題となることは間違いない。そこで、加齢による脳の変化、認知症について解説した後、運動を含めたライフスタイルの改善による認知症の予防法について解説する。 【キーワード】 脳、加齢、認知症、海馬、食事、運動
14	運動とがん	がんは今や国民の二人に一人がかかる病気である。がんの原因を明らかにし、それらに対する予防法を見いだし有効な予防対策を講じることは、国全体として戦略的に取り組むべき喫緊の課題である。がんは遺伝子の変異等が多段階に蓄積することにより発生するが、これらの変異誘発および蓄積の要因（発がん要因）として、近年、肥満・糖尿病、運動不足等の生活習慣との関連が強く示唆されている。この回では、がんの発生と運動、および生活習慣との関係について理解してもらう。 【キーワード】 生活習慣、がん予防、運動、発がんメカニズム
15	子どもの体力・運動能力の現状とその課題	子どもの体力・運動能力の低下は、将来的に国民全体の運動習慣や体力・運動能力低下につながり、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧症、心臓病などの生活習慣病の増加をもたらす、医療や介護に要する費用の高騰、そして社会全体の活力に大きな影響を及ぼすことが予想される。この回では、これまで蓄積されてきた調査データに基づいて、日本人、特に、子どもの体力・運動能力の変化と現状を正しく把握し、その背景を理解する。この問題の解決に向けた取り組みの在り方についても考える。 【キーワード】 体力・運動能力低下、二極化、運動指針、新体力テスト、運動習慣
16	うつ病と脳	うつ病が今後ますます大きな社会問題となることは間違いない。そこで、うつ病について解説した後、ライフスタイルの改善によるうつ病の予防法について解説する。 【キーワード】 脳、うつ病、前頭連合野、食事、運動
17	発達障害と脳	発達障害が今後ますます大きな社会問題となることは間違いない。そこで、発達障害について解説した後、ライフスタイルの改善による発達障害の対応について解説する。 【キーワード】 脳、発達障害、虐待
18	フレイル対策	超高齢社会となった現代においてフレイル対策は重要である。鍼灸師がフレイル対策に関わることは、意義深いものとする。そこで、フレイル対策の概略について解説する。 【キーワード】 フレイル、食事、運動
19	全体の振り返り	これまでの講義を振り返り、ヘルスプロモーション概論Ⅱを総括する。
20	試験	課題レポート試験

【方略】 教員の作成する動画教材を指定の時間にオンラインで視聴する

【評価方法と基準】 各回に実施する小テストとレポートにて成績評価

【学生の質問への対応】 メールで受け付ける

松田佳和：yomatsuda@nichiyaku.ac.jp

井上俊夫：inoue.toshio@nichiyaku.ac.jp

【教科書】 随時紹介

【参考書】 随時紹介

病理学概論

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (通年) 3単位 講義

非常勤講師 大島 恒

【一般目標 (GIO)】 病気とは何か、疾病を持った生体内ではどのような変化が生じているのかを追求する。また、鍼灸師として医療に貢献できる、病理学的な知識を修得する。

【授業概要】 病理学概論では基本的な病理学の概念を説明し、臓器ごとの病理現象についてメカニズムについて解説していく。また、鍼灸師が臨床現場で遭遇するであろう疾患などと関連付けながら講義を進めていく。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	病理学とは・病因 1	病気の区分、病気の内因 (体質、遺伝子) について知る。
2	病因 2	病気の内因 (栄養の過不足) について知る。
3	病因 3	病気の内因 (物理的、化学的) について知る。
4	病因 4	病気の内因 (生物学的) について知る。
5	循環器の異常 1	虚血・鬱血・充血・貧血について知る。
6	循環器の異常 2	出血・血栓について知る。
7	循環器の異常 3	塞栓症・梗塞について知る。
8	循環器の異常 4	水腫・脱水について知る。
9	循環器の異常 5 退行性病変 1	ショック、萎縮について知る。
10	退行性病変 2	生活習慣病 (糖尿病、胆石症) について知る。
11	退行性病変 3	生活習慣病 (痛風、動脈硬化) について知る。
12	進行性病変 1	肥大・増殖・化生・再生について知る。
13	進行性病変 2	移植・創傷治癒について知る。
14	期末テスト	1～13の内容が定着しているか確認する。
15	テスト解説	テストの復習をし、知識の定着を図る。
16	進行性病変 3 炎症 1	骨折の治癒、炎症の区分について知る。
17	炎症 2	結核、梅毒、ハンセン病について知る。
18	腫瘍 1	遺伝子とは何か、腫瘍の概要を知る。
19	腫瘍 2	腫瘍発生の諸段階、腫瘍細胞の特徴について知る。
20	腫瘍 3	腫瘍組織、全身への影響について知る。
21	腫瘍 4	腫瘍の原因、診断、治療について知る。
22	腫瘍 5	悪性・良性の特徴、好発部位について知る。
23	免疫異常 1	白血球の区分、免疫の概要について知る。
24	免疫異常 2	抗体とは何か、I型アレルギーについて知る。
25	免疫異常 3	II型～V型アレルギーの発生機序を知る。
26	免疫異常 4	自己免疫疾患とは何か、その発生機序を知る。

27	免疫異常 5 先天性異常 1	免疫不全とは何か知る。 奇形の発生要因を知る。
28	先天異常 2	代謝異常とは何か、発生機序を知る。
29	期末テスト	16～28 の内容が定着しているか確認する。
30	テスト解説	テストの復習をし、知識の定着を図る。

【方略】 講義（教科書）、板書

【評価方法と基準】 期末試験により評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業内、授業後

【教科書】 『病理学テキスト』第3版, 大島恒 [著], 自費出版, 2026

【参考書】 滝澤登一郎、畠山茂著 「病理学概論 第2版」 医歯薬出版株式会社

【一般目標 (GIO)】 鍼灸師の臨床において適切な診察法を理解し、正しい判断に基づいた医療を行えるよう患者の状態を正確に把握する。その病態把握を实践するうえで必要な臨床医学全般についての知識を学ぶ。

【授業概要】 臨床医学総論では、基本的な診察の流れを理解し、医療面接・身体診察から得た所見から、患者の訴える症状の背景で起きている病態や疾患を予測する能力を習得する為に、身体の構造や生理学的なメカニズムに基づいて解説を行う。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 第1章 診察の概要	診察の意義、順序、関連用語を知り、診察の概要と基本的な流れ、診察に必要な要素を学ぶ。
2	第2章 診察の方法	医療面接の意義と方法、内容を学ぶ。
3	第2章 診察の方法	身体診察について、視診、触診、打診の意義と方法、注意事項を学ぶ。
4	第2章 診察の方法	身体診察について、聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法、注意事項を学ぶ。
5	第3章 生命徴候の診察	生命徴候(バイタルサイン)の種類を知る。その中の体温と脈拍の正常と異常を学ぶ。
6	第3章 生命徴候の診察	生命徴候(バイタルサイン)について、血圧の測定法を学び、正常の数値と異常の数値を学ぶ。呼吸の正常と異常を学ぶ。
7	第4章 全身の診察	全身の診察について、顔貌、顔色の異常および精神状態の異常を学ぶ。
8	第4章 全身の診察	全身の診察について、精神状態の異常および言語の異常を学ぶ。
9	第4章 全身の診察	全身の診察について、身体計測の方法とその意義を知り、体型・体格の異常、栄養状態の異常を学ぶ。
10	第4章 全身の診察	全身の診察について、姿勢と体位の異常を学ぶ。
11	第4章 全身の診察	全身の診察について、歩行の異常を学ぶ。
12	第4章 全身の診察	全身の診察について、皮膚、粘膜、皮下組織の異常(色調の変化、発疹、出血斑)を学ぶ。
13	第4章 全身の診察	全身の診察について、皮膚、粘膜、皮下組織の異常(浮腫、発汗、体毛、掻痒)を学ぶ。
14	第4章 全身の診察	全身の診察について、爪の異常およびリンパ節の異常を学ぶ。
15	第4章 全身の診察	全身の診察について、食欲、睡眠、便通、排尿の異常を学ぶ。
16	第5章 局所の診察	局所の診察について、頭部の異常、顔面の異常を学ぶ。
17	第5章 局所の診察	局所の診察について、眼の異常、鼻の異常、耳の異常を学ぶ。
18	総復習	重要箇所を再確認し、理解を深める。
19	前期期末試験	四者択一問題
20	試験返却・解説	試験の復習をし、理解を深める。
21	第5章 局所の診察	局所の診察について、口腔の異常を学ぶ。
22	第5章 局所の診察	局所の診察について、頸部の異常、胸部の異常を学ぶ。
23	第5章 局所の診察	局所の診察について、腹部の異常、背部の異常を学ぶ。

24	第5章 局所の診察	局所の診察について、上肢の異常、下肢の異常を学ぶ。
25	第6章 神経系の診察	神経系の診察について、感覚検査法を学ぶ。
26	第6章 神経系の診察	神経系の診察について、反射検査(表在性反射、皮膚反射、深部反射)を学ぶ。
27	第6章 神経系の診察	神経系の診察について、反射検査(自律神経反射・病的反射・原始反射)を学ぶ。
28	第6章 神経系の診察	神経系の診察について、脳神経系の検査および髄膜刺激症状検査を学ぶ。
29	第7章 運動機能検査	運動機能検査について、運動麻痺を学ぶ。
30	第7章 運動機能検査	運動機能検査について、筋肉の異常、不随意運動を学ぶ。
31	第7章 運動機能検査	運動機能検査について、協調運動の異常(運動失調)と運動失調に対する検査法、関節可動域検査の概要、徒手検査法の概要、日常生活動作の概要を学ぶ。
32	第7章 運動機能検査	運動機能検査について、頸部・胸部・肩関節の徒手による整形外科的検査法を学ぶ。
33	第7章 運動機能検査	運動機能検査について、腰部・下肢・股関節・膝関節の徒手による整形外科的検査法を学ぶ。
34	第8章 その他の診察 第9章 臨床検査法	その他の診察について、女性の診察、小児の診察、高齢者の診察の特徴と注意点を学ぶ。臨床検査法について、尿検査の概要と項目を学ぶ。
35	第9章 臨床検査法	臨床検査法について、尿検査と便検査の概要と項目を学ぶ。
36	第9章 臨床検査法	臨床検査法について、血液検査の概要と項目、髄液検査の概要、生理学的検査の概要、画像診断の概要を学ぶ。
37	第11章 治療学	治療学について、その概要を知り、治療法の分類、治療法の種類を学ぶ。
38	第12章 臨床心理	臨床心理について、患者心理、心理検査とその評価方法、治療法を学ぶ。
39	後期期末試験	四者択一問題
40	試験返却・解説	試験の復習をし、理解を深める。

【方略】 スライドおよび板書を中心として講義を行う。

【評価方法と基準】 期末試験で評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中、勤務時間内

【教科書】 社団法人 東洋療法学校協会編集 奈良信夫 著
「臨床医学総論 第2版」医歯薬出版株式会社

【参考書】 社団法人 東洋療法学校協会編集 奈良信夫 著
「臨床医学各論・総論 追加資料」医歯薬出版株式会社
その他 随時紹介

実務年数(鍼灸院) 15年

臨床医学各論 I

〔はり師きゅう師学科 昼夜〕 (通年) 2年生 4単位 講義

専任教員 片山 玲美

【一般目標 (GIO)】 より多くの疾患とその症状について理解してもらう。国家試験に対応できるよう重要なポイントを明確化していく。常に他の教科とリンクさせ理解してもらうことにより、国家試験だけではなく臨床の場で役立つ知識をつけてもらう。

【授業概要】 プリントを配布し、それを中心に授業を進める。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	整形外科疾患	総論、関節疾患を理解する。
2	整形外科疾患	関節疾患、骨代謝性疾患、骨腫瘍、筋・腱疾患を理解する。
3	整形外科疾患	関節疾患、骨代謝性疾患、骨腫瘍、筋・腱疾患を理解する。
4	整形外科疾患	形態異常を理解する。
5	整形外科疾患	脊椎疾患を理解する。
6	整形外科疾患	脊椎疾患を理解する。
7	整形外科疾患	脊椎疾患、脊髄損傷を理解する。
8	整形外科疾患	外傷を理解する。
9	整形外科疾患	スポーツ障害、その他の疾患を理解する。
10	中間試験	選択問題ならびに記述問題。
11	試験解説	誤った箇所を訂正し、理解する。
12	感染症	総論～ジフテリアを理解する。
13	感染症	破傷風～細菌性食中毒を理解する。
14	感染症	細菌性赤痢～麻疹を理解する。
15	感染症	風疹～アデノウイルス感染症を理解する。
16	感染症	コクサッキーウイルス感染症～エイズを理解する。
17	消化管疾患	口腔疾患～胃食道逆流症を理解する。
18	消化管疾患	その他の食道疾患～胃・十二指腸潰瘍を理解する。
19	期末試験	選択問題ならびに記述問題。
20	試験解説	誤った箇所を訂正し、理解する。
21	消化管疾患	胃癌～急性腸炎を理解する。
22	消化管疾患	潰瘍性大腸炎～過敏性腸症候群を理解する。
23	消化管疾患	虫垂炎～腸閉塞を理解する。
24	消化管疾患 肝・胆・膵疾患	その他の腸疾患、急性肝炎を理解する。
25	肝・胆・膵疾患	急性肝炎～肝硬変を理解する。
26	肝・胆・膵疾患	肝癌～胆道感染症を理解する。
27	肝・胆・膵疾患	胆嚢癌・総胆管癌～慢性膵炎を理解する。
28	肝・胆・膵疾患 呼吸器疾患	膵癌～肺結核を理解する。

29	中間試験	選択問題ならびに記述問題。
30	試験解説	誤った箇所を訂正し、理解する。
31	呼吸器疾患	肺気腫～気管支喘息を理解する。
32	呼吸器疾患	特発性肺線維症～肺塞栓症を理解する。
33	呼吸器疾患 泌尿器疾患	過換気症候群～急性腎不全を理解する。
34	泌尿器疾患	慢性腎不全～尿道炎を理解する。
35	泌尿器疾患 内分泌疾患	腎腫瘍～クッシング病を理解する。
36	内分泌疾患	先端巨大症・巨人症～甲状腺機能亢進症を理解する。
37	内分泌疾患	甲状腺機能低下症～副腎皮質機能亢進症を理解する。
38	内分泌疾患	原発性アルドステロン症～褐色細胞腫を理解する。
39	期末試験	選択問題ならびに記述問題。
40	試験解説	誤った箇所を訂正し、理解する。

【方略】 講義（教科書と配布プリント）および板書、パワーポイントなど。

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】

【参考書】 奈良信雄・佐藤千史 他著 『臨床医学各論 第2版』・『臨床医学各論・総論 追加資料』医歯薬出版株式会社

『病気がみえる』 MEDIC MEDIA

実務年数（鍼灸院）18年

臨床医学各論Ⅱ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (通年) 4単位 講義

非常勤講師 大島 恒

【一般目標 (GIO)】 医療の基本を身に着けるために、臨床医学各論の履修は極めて重要である。様々な疾病について基本的な知識を修得し、社会のニーズに応えられるような鍼灸師を育成する。

【授業概要】 臨床医学各論では疾病の概念を説明し、疾病ごとにその成因、病態生理について解説していく。授業では、鍼灸師が臨床現場で遭遇するであろう疾患などに関連付けながら講義を進めていく。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	代謝・栄養疾患 1	糖尿病の概要、病態生理を知る。
2	代謝・栄養疾患 2	糖尿病・脂質異常症の概要、病態生理を知る。
3	代謝・栄養疾患 3	高尿酸血症、栄養障害の病態生理を知る。
4	循環障害 1	心不全の病態生理を知る。
5	循環障害 2	心臓弁膜疾患の病態生理を知る。
6	循環障害 3	不整脈、先天性心疾患の病態生理を知る。
7	循環障害 4	冠動脈疾患の病態生理を知る。
8	循環障害 5	その他の心疾患の病態生理を知る。
9	循環障害 6	大動脈瘤、高安病の病態生理を知る。
10	循環障害 7	高血圧症などの病態生理を知る。
11	循環障害 8	その他の循環障害の病態生理を知る。
12	血液・造血疾患 1	貧血の病態生理を知る。
13	血液・造血疾患 2	貧血、白血病の病態生理を知る。
14	血液・造血疾患 3	白血病の病態生理を知る。
15	血液・造血疾患	その他の造血器疾患の病態生理を知る。
16	神経疾患 1	脳血管疾患の総論、脳梗塞の各論を解説する。
17	神経疾患 2	出血性脳血管障害の病態生理を知る。
18	神経疾患 3	虚血性脳血管障害の病態生理を知る。
19	期末試験	学習の定着度を確認する。
20	テスト解説	解答と解説を行い、理解を深める。
21	神経疾患 4	髄膜炎の病態生理について知る。
22	神経疾患 5	脳腫瘍の病態生理について知る。
23	神経疾患 6	基底核変性疾患の病態生理について知る。
24	神経疾患 7	パーキンソン病の病態生理について知る。
25	神経疾患 8	認知症の病態生理について知る。
26	神経疾患 9	運動ニューロン疾患の病態生理について知る。
27	神経疾患 10	末梢神経疾患の病態生理について知る。
28	神経疾患 11	上肢の末梢神経障害の病態生理について知る。

29	神経疾患 1 2	下肢の末梢神経障害の病態生理について知る。
30	神経疾患 1 3	神経痛病態生理について知る。
31	膠原病 1	膠原病について知る。
32	膠原病 2	膠原病について知る。
33	その他の領域 1	外科の疾患について知る。
34	その他の領域 2	応急処置について知る。
35	その他の領域 3	婦人科疾患について知る。
36	その他の領域 5	皮膚科、眼科疾患について知る。
37	その他の領域 6	耳鼻科疾患について知る。
38	その他の領域 7	精神科疾患について知る。これまでの復習。
39	期末試験	学習の定着度を確認する。
40	テスト解説	試験の解説を行い理解を深める。

方略 講義、配布資料、板書（対面）

【評価方法と基準】 期末試験により評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業内、授業後

【教科書】

【参考書】 奈良信雄・佐藤千史 他著 「臨床医学各論 第2版」医歯薬出版株式会社
実務年数（鍼灸院）33年

衛生学・公衆衛生学

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (前期) 2単位 講義

専任教員 丸山 真由美

【一般目標 (GIO)】 衛生学・公衆衛生学の概念を理解。いろいろな分野にまたがる衛生学を精神保健、産業保健、母子・高齢者保健、環境問題、健康をとおして理解していく。情報収集の大事さを再確認してもらう。

【授業概要】 プリントを配布し、それを中心に授業をすすめる。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の 意義	オリエンテーション。 衛生学・公衆衛生学とは、変革、活動と意義等を理解する。
2	第2章 健康	健康の概要、疾病予防、健康管理、衛生行政、保健所の業務、医療制度と医療保障等について理解する。
3	第3章 ライフスタイルと健康	食品と栄養、保健機能食品、食品加工と添加物、食中毒、運動と健康等について理解する。
4	第4章 環境と健康	環境要因、外部環境と内部環境等について理解する。
5	第4章 環境と健康	物理学的・化学的・生物学的環境要因等について理解する。
6	第4章 環境と健康	大気汚染や水質汚濁などの公害、地球温暖化や酸性雨などの地球規模の環境問題等について理解する。
7	第5章 産業保健	労働衛生行政、労働環境と健康、労働災害とその対策、業務上疾病等について理解する。
8	第6章 精神保健 精神の健康と精神障害	精神障害の分類、主な精神疾患、精神障害者に対する医療および保護等について理解する。
9	第7章 母子保健	母体や乳幼児の健康、母体保護と家族計画、少子化問題、子育て支援等について理解する。
10	第8章 学校保健	学校で保健教育、保健管理、予防すべき感染症、学齢期の健康状態について理解する。
11	第9章 成人・高齢者保健	生活習慣病の特徴と対策、悪性新生物の予防と対策、心臓疾患や脳卒中の予防と対策等について理解する。
12	第9章 成人・高齢者保健	高齢者の保健福祉対策、介護保険等について理解する。
13	第10章 感染症とその対策	感染症の意義、真菌・原虫・細菌・ウイルスなどの感染症の分類等について理解する。
14	第10章 感染症とその対策	感染症の発生要因、感染症の予防、免疫、予防接種等について理解する。
15	第11章 消毒法	病原微生物の種類、物理的・化学的方法の消毒の種類、医療における消毒について理解する。
16	第12章 疫学	有病率や罹患率、記述・分析疫学などの疫学調査研究等について理解する。

17	第13章 保険統計	人口統計、疾病統計、人口増加率、年齢別人口構成等について理解する。
18	第13章 保険統計	粗出生率、粗死亡率、合計特殊出生率、死因別死亡率等について理解する。
19	前期期末試験	前期期末試験
20	試験解説	試験解説

※進行程度により、シラバス変更の可能性あり。

【方略】講義（教科書と配布プリント）および演習

【評価方法と基準】期末試験で評価を行う。

【学生の質問への対応】授業中、勤務時間内随時

【教科書】「衛生学・公衆衛生学第2版」 鈴木庄亮著 医歯薬出版株式会社

【参考書】「国民衛生の動向」厚生労働統計協会、「公衆衛生が見える」MEDIC MEDIA 他
実務年数（鍼灸院）7年

関係法規

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (後期後半) 1単位 講義

非常勤講師 大島 恒

【一般目標 (GIO)】 はり師、きゅう師それぞれの免許を取得し、業に係る上で必要となる「あはき法」やその他「医療、地域保健、福祉関連法規」等を習得する。また、鍼灸師としての活動の分野の可能性を知り、医療人としての自覚を持てるようになる。

【授業概要】 教科書に沿って進めていながら、補足内容等は配布資料などを使って、理解しやすいよう工夫して行っていく。また、授業の中で国試の過去問題を解く時間を設け、内容の理解度や定着度を高めていく。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	法の沿革・目的	あはき法の成り立ち、目的について知る。
2	免許	免許の取り扱いについて知る。
3	業務	あはき法に定められている鍼灸師の業務について知る。
4	業務・罰則	鍼灸師の業務、罰則について知る。
5	医療法・医師法	医療法・医師法について知る。
6	その他の関係法規	その他の医療従事者の法律、薬事法規について知る。
7	その他の関係法規	衛生関係法規、社会福祉関係法規について知る。
8	その他の関係法規	社会保険・介護保険・生活保護などについて知る。
9	期末試験	1～8の内容が定着しているか確認する。
10	試験解説	試験の解説を行う。

【方略】 講義 (配布資料、教科書)、板書

【評価方法と基準】 期末試験により評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業内、勤務時間内随時

【教科書】 「関係法規第7版」前田和彦著 医歯薬出版株式会社

【参考書】

実務年数 (鍼灸院) 33年

東洋医学概論Ⅱ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (通年) 4単位 講義

非常勤講師 塚原 拓

【一般目標 (GIO)】一年次の東洋医学概論Ⅰで学習しなかった部分の東洋医学の基礎概念を学習し理解する。そして、東洋医学的治療の素地を作る。

【授業概要】

配布資料を配り、授業を進めていく

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	気機の相互関係について	気の運動 (昇・降・出・入) の相互関係について学習する。
2	気機の相互関係について	気の運動 (昇・降・出・入) の相互関係について学習する。
3	五臓の相互関係について	五臓六腑の相互関係について理解し、学習する。
4	五臓の相互関係について	五臓六腑の相互関係について理解し、学習する。
5	五臓の相互関係について	五臓六腑の相互関係について理解し、学習する。
6	経絡・経穴について	概念・機能・構成・病理・その他 (絡脈・経筋・皮部) について学習する。
7	経絡・経穴について	概念・機能・構成・病理・その他 (絡脈・経筋・皮部) について学習する。
8	経絡・経穴について 前期中間試験前総括	概念・機能・構成・病理・その他 (絡脈・経筋・皮部) について学習する。
9	前期中間試験	
10	前期中間試験解説	
11	病因・病機について	外感病因・内傷病因・その他病因・内生五邪について学習する。
12	病因・病機について	外感病因・内傷病因・その他病因・内生五邪について学習する。
13	病因・病機について	外感病因・内傷病因・その他病因・内生五邪について学習する。
14	病因・病機について	外感病因・内傷病因・その他病因・内生五邪について学習する。
15	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
16	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
17	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
18	四診について 前期期末試験前総括	望診・聞診・問診・切診について学習する。
19	前期期末試験	
20	前期期末試験解説	
21	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
22	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
23	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
24	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
25	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
26	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。
27	四診について	望診・聞診・問診・切診について学習する。

28	四診について 後期中間前総括	望診・聞診・問診・切診について学習する。
29	後期中間試験	
30	後期中間試験解説	
31	弁証について	八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証・経絡弁証・六淫弁証・六經弁証・衛氣營血弁証・三焦弁証について学習する。
32	弁証について	八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証・経絡弁証・六淫弁証・六經弁証・衛氣營血弁証・三焦弁証について学習する。
33	論治について	治療理論（治則・治法）について学習する。
34	論治について	治療理論（治則・治法）について学習する。
35	論治について	治療理論（治則・治法）について学習する。
36	弁証論治の進め方について	実際の症例を参考に弁証論治について学習（出来るよう）する。
37	弁証論治の進め方について	実際の症例を参考に弁証論治について学習（出来るよう）する。
38	弁証論治の進め方について 後期期末試験前総括	実際の症例を参考に弁証論治について学習（出来るよう）する。
39	後期期末試験	
40	後期期末試験解説	

【方略】 資料を配布し、板書しながら講義する。また、診断・弁証論治の際は実施し理解を深める。

【評価方法と基準】 中間試験と期末試験の合計点にて評価する。

【学生の質問への対応】 出勤時間内随時

【教科書】 新版 東洋医学概論 （医道の日本社）

【参考書】 随時紹介

実務年数（鍼灸院）16年

生体観察

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (前期) 2単位 講義

専任教員 丸山 真由美

【一般目標 (GIO)】 体表から見える、筋・骨・関節をよく観察し、鍼灸師に必要な不可欠な知識と、視診・触診能力の向上を図る。

【授業概要】 体表より筋・骨・関節の動きを観察・触診し、人体の構造を理解し取穴が的確に出来る。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション	体表観察・人体指標 (骨指標・前脛骨筋) の触知と取穴
2	下腿部①	長・短腓骨筋の触知と取穴
3	下腿部②	腓腹筋・ヒラメ筋の触知と取穴
4	大腿部③	大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋の触知と取穴
5	大腿部④	大腿四頭筋、縫工筋の取穴と触知
6	背部①	骨指標 (脊柱・肋骨) 脊柱起立筋の触知と取穴
7	背部②	肩甲骨の触知 (上角・下角・肩甲棘、肩峰) と取穴
8	背部③	僧帽筋の触知と取穴
9	背部④	棘上筋、棘下筋の触知と取穴
10	背部⑤	小円筋、肩甲下筋、菱形筋の触知と取穴
11	肩部上腕部	三角筋、上腕二頭筋の触知と取穴
12	腰臀部①	腰臀部の骨指標、大殿筋、大腿筋膜張筋の触知と取穴
13	腰臀部②	腰臀部の骨指標、中殿筋、梨状筋の触知と取穴
14	胸腹部	胸腹部の骨指標の触知と取穴
15	頭頸部	頭頸部の骨指標、頸部の筋の触知と取穴
16	全身	骨・筋・神経・血管・内臓器の確認と、危険部位等の刺鍼時の安全深度を確認し、解剖学を学ぶ
17	全身	筋支配と経穴の分布
18	復習	重要箇所再確認と総復習
19	期末試験	期末試験
20	フィードバック	期末試験解説

【方略】 実習・講義 (配布プリント、板書) ・スライド

【評価方法と基準】 期末試験で評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】 解剖学第2版 (医歯薬出版) ・経絡経穴概論第2版 (医道の日本社)

【参考書】 プロメテウスほか

実務年数 (鍼灸院) 7年

あはきの適応判断

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (後期) 2単位 講義

専任教員 梅田 伸威

【一般目標 (GIO)】

鍼灸治療が適応となるもの、不適応となるものの鑑別ポイントについて学ぶ。

【授業概要】

東洋医学臨床論 (東洋系) の各症状について、鍼灸治療が適応となるもの・不適応となるものの鑑別ポイントを学習する。また、適応疾患については東洋医学的な治療法や治療穴について学習する。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 痛みの総論	この科目の位置づけと、成績の付け方について説明する。 東洋医学では痛みをどのように考えているのか学習する。
2	頭痛について	頭痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
3	顔面痛、歯痛について	顔面痛、歯痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
4	痺症、頸肩腕痛について	痺症、頸肩腕痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
5	上肢痛、肩関節痛について	上肢痛、肩関節痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
6	腰下肢痛、腰痛について	腰下肢痛、腰痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
7	下肢痛、膝痛について	下肢痛、膝痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
8	胸痛について	胸痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
9	腹痛について	腹痛について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
10	中間テスト	
11	眼精疲労、気分障害について	眼精疲労、気分障害について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
12	めまいについて	めまいについて鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
13	動悸、息切れについて	動悸、息切れについて鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
14	血圧異常、睡眠障害について	血圧異常、睡眠障害について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。

15	食欲不振について	食欲不振について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
16	肥満、やせ	肥満、やせについて鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
17	悪心嘔吐、便秘について	悪心嘔吐、便秘について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
18	便秘、下痢について	便秘、下痢について鍼灸治療が不適応となるものの鑑別ポイントと、鍼灸適応となるものの治療法や治療穴について学習する。
19	期末テスト	
20	テスト返却	期末テストについて解説を行い、テスト内容の確認を行う。

【方略】 講義

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中、勤務時間内随時

【教科書】 新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編） 南江堂

【参考書】 鍼灸学臨床編、他

実務年数（鍼灸院） 21年

病態生理学

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (後期) 2単位 講義

専任教員 澤口 真也

【一般目標 (GIO)】さまざまな症状、徴候を呈する患者に対し適切な施術を提供できるよう、症候の背景にある病態生理の医学的知識を獲得することを目標とする。また、その知識を鍼灸における病態把握に活かすことでリスク管理の向上を図る。

【授業概要】病態生理学では、人体の構造と機能をもとに各症候に対する病態生理について理解し、臨床に繋がる知識を持つことを教授する。

【授業計画】 後期

回	項目 (担当者)	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 頭頸部の脈管・リンパ・神経について、頭痛	授業の進め方や評価方法について説明する。 各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
2	頭痛、顔面痛	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
3	顔面痛、歯痛、眼精疲労、鼻閉・鼻汁	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
4	めまい、耳鳴、難聴	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
5	難聴、咳・痰、呼吸困難、動悸、胸痛	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
6	胸痛、腹痛、便秘	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
7	便秘、下痢、月経異常	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
8	不正性器出血、排尿障害、乏尿・無尿、多尿、浮腫	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
9	定期試験(中間テスト)	4者択一問題
10	定期試験解答解説	定期試験の解答を示し、解説する。
11	上肢の脈管・リンパ・神経について、肩こり、頸肩腕痛	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
12	肩関節痛、上肢痛	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
13	下肢の脈管・リンパ・神経について、腰下肢痛	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
14	腰下肢痛、関節痛、運動麻痺	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
15	食欲不振、肥満、やせ(るいそう)、発熱	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
16	のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠、発疹・かゆみ	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
17	ショック、出血傾向、易感染症、貧血、眼振、口渇	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
18	嘔声、嚥下困難、血痰・喀血、胸水、悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害	各症候から病態生理を理解し、疾患を想定できる。
19	定期試験(期末テスト)	4者択一問題。
20	定期試験解説	定期試験の解答を示し、解説する。

【方略】 講義（教科書、配布資料）、および板書、プロジェクター

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業内、授業後、その他

【教科書】 社団法人 東洋療法学校協会編 「臨床医学総論第2版」 医歯薬出版

【参考書】 「病気がみえる」 クイックメディア各巻

「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」 矢野忠 著 文光堂

実務年数（鍼灸院）18年

基礎はりきゅう実技Ⅲ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (前期) 1単位 実習

専任教員 澤口 真也

【一般目標 (GIO)】1年次で習得したはり実技の基礎となる技術を、確実にしていくこと。また、臨床に向けて人体への刺鍼、施灸を安全に行うために、刺鍼角度・深度、艾の硬さなどを習得する。

【授業概要】授業資料を使い、課題となる経穴部位や筋を確認しながら安全に刺鍼をする。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション	オリエンテーション、刺鍼(直刺・斜刺・水平刺等)と施灸の復習
2	下腿部前面・足部の刺鍼	下腿部前面の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。透熱灸
3	下腿部後面・足部の刺鍼	下腿部後面の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。円皮鍼、透熱灸
4	大腿部前面・鼠径部の刺鍼	大腿部前面の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。透熱灸
5	大腿部後面の刺鍼	大腿部後面の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。皮内鍼
6	腰殿部の刺鍼	腰殿部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。長鍼
7	腰殿部の刺鍼	腰殿部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。長鍼、灸頭鍼 (側臥位)
8	背部の刺鍼	背部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼・施灸できるようにする。
9	背部の刺鍼	背部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼・施灸できるようにする。透熱灸、灸頭鍼 (伏臥位)
10	肩甲骨周囲部の刺鍼	肩甲骨間部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼・施灸できるようにする。横刺
11	肩甲骨間部・肩上部の刺鍼	肩甲骨間部、肩上部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼・施灸できるようにする。透熱灸 (坐位)
12	後頸部の刺鍼	後頸部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。透熱灸
13	上腕部・前腕部の刺鍼	上腕・前腕部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼できるようにする。透熱灸
14	頭部・顔面部の刺鍼	頭部・顔面部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼・施灸できるようにする。短鍼
15	前頸部・胸腹部の刺鍼	前頸部・胸腹部の筋、指標確認、取穴をし、安全に刺鍼・施灸できるようにする。透熱灸
16	総復習	期末試験についての説明と総復習
17	期末試験	期末試験
18	期末試験	期末試験
19	フィードバック	期末試験のフィードバック
20	復習	再復習 (追・再試験)

【方略】講義・演習、配布資料

【評価方法と基準】定期試験で評価を行う。

【学生の質問への対応】授業中、勤務時間内随時

【教科書】「解剖学第2版」医歯薬出版株式会社

「経絡経穴概論第2版」教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

【参考書】随時紹介

実務年数（鍼灸院）18年

臨床はりきゅう実技Ⅰ（パルス）

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (後期) 1単位 実習

専任教員 澤口 真也

【一般目標 (GIO)】 解剖学視点において、筋・骨・神経の繋がりを理解し、目的とする筋に対して安全かつ適切な刺鍼とパルスの使用が行える。

【授業概要】 授業資料を使い、課題となる筋の位置や動きを確認しながら安全に刺鍼をする。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション	鍼通電療法について・パルスの扱い方、刺鍼の復習
2	下腿部 (前面)	下腿前面の筋の触知と刺鍼 (前脛骨筋、長趾伸筋)
3	下腿部 (外側)	下腿外側の筋の触知と刺鍼 (長腓骨筋、短腓骨筋)
4	下腿部 (後面)	下腿後面の筋の触知と刺鍼 (腓腹筋、ヒラメ筋)
5	大腿部 (前面)	大腿前面の筋の触知と刺鍼 (内側広筋、外側広筋、大腿直筋)
6	大腿部 (後面)	大腿後面の筋の触知と刺鍼 (大腿二頭筋、半腱・半膜様筋)
7	殿部	殿部の筋の触知と刺鍼 (梨状筋、中殿筋)
8	前腕部	前腕の筋の触知と刺鍼 (橈側手根伸筋、総指伸筋)
9	前腕部	前腕の筋の触知と刺鍼 (腕橈骨筋、尺側手根屈筋)
10	上腕部 (前面)	上腕前面の筋の触知と刺鍼 (上腕二頭筋、三角筋)
11	上腕部 (後面)	上腕後面の筋の触知と刺鍼 (上腕三頭筋、僧帽筋)
12	肩部	肩部の筋の触知と刺鍼 (棘上筋、棘下筋)
13	後頸部	後頸部の筋の触知と刺鍼 (肩甲挙筋、頭板状筋)
14	頸部、頭顔面部	頸部、頭顔面部の筋の触知と刺鍼 (胸鎖乳突筋、咬筋、側頭筋)
15	腰部	腰部の筋の触知と刺鍼 (腰部神経根、椎間関節)
16	総復習	期末試験についての説明と総復習
17	期末試験	期末試験
18	期末試験	期末試験
19	フィードバック	期末試験のフィードバック
20	復習	再復習 (追・再試験)

【方略】 講義・演習、配布資料

【評価方法と基準】 定期試験で評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】 解剖学第2版 (医歯薬出版)・経絡経穴概論第2版 (医道の日本社)

【参考書】 随時紹介

実務年数 (鍼灸院) 18年

臨床はりきゅう実技Ⅱ（美容鍼灸）

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生（前期） 1単位 実習

非常勤講師 北見 成達

【一般目標（GIO）】 美容鍼灸の理論や根拠と実技において、筋、骨、神経、循環の関わりを理解する。

【授業概要】 5F実習室を使用し、デモンストレーションを行い、美容鍼灸の理論と主訴別の施術方法を理解し実践する。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標（授業内容）
1	講義	発生学と医学的根拠に基づいた美容鍼灸について 美容鍼灸の効果やリスクと可能性について
2	講義および実技実習	フェイシャル 表情筋の触察、刺鍼部位の確認
3	講義および実技実習	フェイシャル 表情筋の触察、刺鍼部位の確認
4	講義および実技実習	フェイシャル 表情筋の触察、刺鍼部位の確認
5	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、乾燥肌、浅いシワについて
6	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、乾燥肌、浅いシワについて
7	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、リフトアップ、くま、くすみについて
8	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、リフトアップ、くま、くすみについて
9	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、リフトアップ、くま、くすみについて
10	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、肌荒れ、深いシワについて
11	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、肌荒れ、深いシワについて
12	講義および実技実習	美容鍼灸施術と全身治療について
13	講義および実技実習	美容鍼灸施術と全身治療について
14	講義および実技実習	美容鍼灸施術と全身治療について
15	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、男性美容鍼灸、女性美容鍼灸について
16	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、男性美容鍼灸、女性美容鍼灸について
17	講義および実技実習	主訴別の刺鍼、男性美容鍼灸、女性美容鍼灸について
18	期末試験	主訴に対する刺鍼
19	フィードバック	試験結果について、解説
20	追・再試験	追試験及び再試験

【方略】 講義およびデモンストレーション後実技演習

【評価方法と基準】 定期試験で評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】 なし

【参考書】 配布資料

実務年数（鍼灸院）19年

臨床はりきゅう実技Ⅲ（伝統鍼灸）

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生（後期） 1単位 実習

専任教員 丸山 真由美

【一般目標（GIO）】 日本の伝統鍼灸である経絡治療の観点より、四診から施術への組み立て、流れを理解し、本治法ができるようになる。

【授業概要】 基本的な祖脈診て、脈診・腹診・背診より証を立て、六十九難により選穴し施術を行う。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標（授業内容）
1	オリエンテーション	総論 脈診基礎
2	実技実習①	脈の診方（祖脈）
3	実技実習②	脈の診方（祖脈、六部定位）
4	実技実習③	脈の診方（祖脈、脈状、六部定位）、素因について
5	実技実習④	脈の診方（六部定位）、四診（切経）
6	実技実習⑤	脈の診方（六部定位）、四診（腹診、望診）
7	実技実習⑥	証立て 難経六十九難による選穴（本治穴）
8	実技実習⑦	証立て 難経六十九難による選穴（単刺）
9	実技実習⑧	証立て 難経六十九難による選穴（陰陽の虚実と病理病証①）
10	実技実習⑨	証立て 難経六十九難による選穴（陰陽の虚実と病理病証②）
11	実技実習⑩	証立て 難経六十九難による選穴（陰陽の虚実と病理病証③）
12	実技実習⑪	本治法（腹部刺鍼、本治）
13	実技実習⑫	本治法、標治法（背部置鍼）
14	実技実習⑬	本治法、標治法（局所治療について）
15	復習①	四診より証を立て、選穴、刺鍼までの一連の流れを復習する。
16	復習②	期末試験の説明と復習
17	期末試験①	期末試験
18	期末試験②	期末試験
19	フィードバック	期末試験フィードバック
20	臨床応用実技	総合施術（本治と標治法により施術）

※進度により変更の可能性あり。

【方略】 講義・演習、配布資料

【評価方法と基準】 定期試験で評価を行う。

【質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】 東洋医学概論（医道の日本社）・経絡経穴概論第2版（医道の日本社）

【参考書】 経絡治療学会編『日本鍼灸医学 基礎編』、脈診習得法 MAM（医歯薬出版）ほか
実務年数（鍼灸院）7年

臨床はりきゅう実技Ⅳ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生 (後期) 1単位 実習

非常勤講師 飯村 雅代

【一般目標 (GIO)】 臨床実習をするにあたり、患者との接し方、医療面接やカルテの書き方などを習得し、病態を正しく把握するための検査技法を学ぶ。

【授業概要】 医療面接を通じて患者の心理を理解し、患者と施術者の立場の違いを学ぶ。質問テクニックを学び、検査技法から得た情報を整理し病態を推察する。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	医療面接とは 医療面接技法	問診と医療面接の基本を学ぶ。 会話の技法や患者との信頼関係について学ぶ。
2	徒手検査について 関節可動域と筋力	徒手検査の注意事項を理解する。 ROM、MMT の基礎知識を理解し、練習を行う。
3	医療面接技法	医療面接で確認する内容 (患者像・主訴・現病歴・既往歴・家族歴・社会歴等) を学ぶ。カルテの書き方を学ぶ。
4	反射の評価について ガイドラインについて	反射の評価 (深部反射、病的反射) について理解し、練習を行う。 鍼灸安全ガイドラインを理解し、安全管理・衛生管理について学ぶ。
5	医療面接実習①	経過記録を SOAP で考える。 頸部の医療面接を行い、カルテを作成する。
6	頸部の診察	頸椎症と関連する徒手検査を理解し、検査の練習を行う。 胸郭出口症候群と関連する徒手検査を理解し、検査の練習を行う。
7	医療面接実習②	肩関節周囲炎の医療面接を行い、カルテを作成する。
8	肩部の診察	肩関節周囲炎と関連する徒手検査を理解し、検査の練習を行う。
9	医療面接実習③	腰部疾患の医療面接を行い、カルテを作成する。
10	腰部の診察	腰部疾患と関連する徒手検査を理解し、検査の練習を行う。
11	医療面接実習④	膝部・股関節疾患の医療面接を行い、カルテを作成する。
12	膝・股関節の診察	膝部・股関節疾患と関連する徒手検査を理解し、検査の練習を行う。
13	医療面接実習	試験前復習
14	徒手検査復習	試験前復習
15	期末試験	筆記テスト：医療面接、カルテ作成のテスト
16	期末試験	実技テスト：徒手検査の理解、到達度の確認
17	フィードバック	筆記テストの試験解説
18	フィードバック	実技テストの評価
19	復習	医療面接実習、症例説明
20	復習	総復習

【方略】 講義・演習、配布資料

【評価方法と基準】 期末試験

【学生の質問への対応】 授業中、勤務時間内随時

【教科書】 なし

【参考書】 【鍼灸臨床における 医療面接】 明治鍼灸大学名誉教授 丹澤章八 編著
【鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック】 出端昭男 著 など 随時紹介

実務年数（鍼灸院）5年

臨床はりきゅう実技Ⅴ（トリガー）

[はり師きゅう師学科 昼夜] 2年生（後期） 1単位 実習

非常勤講師 森田 義之

【一般目標（GIO）】 現代鍼灸療法であるトリガーポイント鍼療法の知識と技術を習得する。

【授業概要】 解剖学、運動学に基づいた経穴部以外のトリガーポイントが形成されやすい筋肉、筋膜、腱、靭帯、骨膜に刺鍼を行う。一定以上の技術、知識を習得した者にはC級ライセンスが授与される

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標（授業内容）
1	オリエンテーション	C級ライセンスの説明など、オリエンテーションを行う。
2	トリガーポイント触察法	トリガーポイントの捜し方、刺鍼方法の習得
3	僧帽筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
4	肩甲挙筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
5	頭半棘筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
6	頭・頸板状筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
7	三角筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
8	肩甲下筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
9	脊柱起立筋の触察	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージできる
10	大臀筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
11	中・小殿筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
12	大腿四頭筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
13	半腱・半膜様筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
14	腓腹筋・ヒラメ筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
15	前脛骨筋の触察・刺鍼方法	目的とする筋肉を理解し、3Dでイメージし、刺鍼できる
16	運動器疾患以外の適応	トリガーポイント鍼療法の適応疾患についての理解
17	後期定期試験	期末試験（筆記、実技）にて、到達レベルを判定する。
18	後期定期試験	期末試験（筆記、実技）にて、到達レベルを判定する。
19	まとめ、復習	まとめ、復習を行う。
20	質疑応答	半期の授業全体における質疑応答を行う。

【方略】 プリント、板書、演習

【評価方法と基準】 定期試験で評価を行う。

追・再試験も実施する。

【学生の質問への対応】 出勤時間内に対応

【教科書】 随時紹介

【参考書】 随時紹介

実務年数（鍼灸院）31年